

猿 橋
小学校

瑛玖良

瑛玖良校は明治期における猿橋小の旧名。切磋琢磨の意が込められている。

心は誰にも見えないけれど…

校長 澁谷 一男

『こころ』はだれにも見えないけれど、『こころづかい』は見える。『思い』は見えないけれど、『思いやり』はだれにでも見える。その気持ちをカタチに。」

これは、東日本大震災の後によく流れていたテレビCMだ。人の心は目で見ることができないが、たった一言、言葉にするだけで、その人の心遣いが見えるようになる。言葉にしなくとも、優しくほほえみかける、そっと手を貸してあげる、黙ってそばにいてあげる…そんな小さな行為でも、思いは相手に伝わるだろう。心遣いや思いやりが見えるのは、心や思いを行為にしているからだ。



以前、学校だよりで取り上げた医療従事者への差別について、全校朝会で子どもたちにも話をした。その話を聞き、厳しい状況下で懸命に仕事をされている看護師さんに感謝の気持ちを伝えようと、県立病院に手紙を書いた子どもがいた。その手紙を読んだ県立病院の看護師さんたちからは、「手紙を読んでとても励まされました。」「勇気をもらいました。」と、お礼の手紙が返ってきた。看護師さんへの思いは目には見えない。しかし、その思いを手紙に書くという行為に移したから、その「思い」が「思いやり」として相手に伝わったのだ。

この話を学級担任から聞き、心の中が温かく幸せな気持ちで満たされる思いだった。そして、猿橋小学校にこのような子がいることを、心から誇らしく思った。

冒頭に紹介したテレビCMには、実は元になった詩がある。宮澤章二さんの「行為の意味」という詩だ。

—あなたの<こころ>はどんな形ですか と ひとに聞かれても答えようがない
自分にも他人にも<こころ>は見えない けれど ほんとうに見えないのであろうか
確かに<こころ>はだれにも見えない けれど<こころづかい>は見えるのだ
それは 人に対する積極的な行為だから
同じように胸の中の<思い>は見えない けれど<思いやり>はだれにでも見える
それも人に対する積極的な行為だから
あたたかい心が あたたかい行為になり やさしい思いが やさしい行為になるとき
<心>も<思い>も 初めて美しく生きる —それは 人が人として生きることだ

夏休み、子どもたちは家庭や地域に帰る。子どもたちの「心」や「思い」が、温かさと優しさに満ちた、たくさんの「行為」となって表れることを願う。